

～教科・領域のポイント～

【総合的な学習の時間】

1. 学習指導要領改訂のポイント

(1) 目標について

○ 現行学習指導要領

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自らの課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

○ 新学習指導要領

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 **(知識及び技能)**
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 **(思考力・判断力・表現力等)**
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 **(学びに向かう力、人間性等)**

(2) 探究的な見方・考え方を働かせる（小学校・中学校）

右図は、「総合的な学習の時間における児童生徒の学習の姿」である。図のような一連の学習過程を支えるのが、探究的な見方・考え方である。それは、各教科における見方・考え方を総合的に活用することが考えられる。また、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けることである。

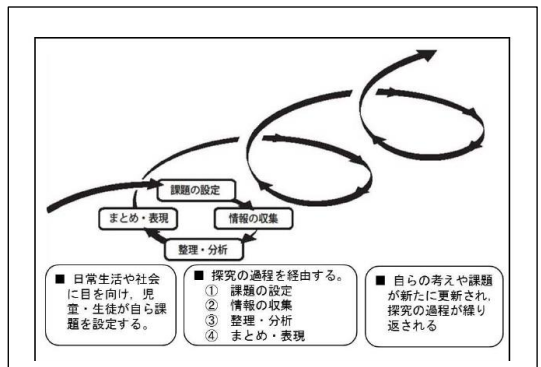
(3) 横断的・総合的な学習を行う（小学校・中学校）

総合的な学習の時間では、特定の教科等の枠組みの中だけで完結するものでなく、探究する価値のある課題について、各教科で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組むことが大切である。

(4) よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく（小学校・中学校）

よりよく課題を解決する資質・能力は、試行錯誤しながらも新しい未知の課題に対応していくことなどが求められる。また、このような学習を通して、児童生徒は学ぶことの意味や価値を考えたり、学ぶことを通して達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、自分の人生や将来について考えていくことが大切である。

総合的な学習の時間は、具体的な活動や事象との関わりをよりどころとし、また身に付けた資質・能力を用いて、課題を解決する中で多様な視点から考えることが大切である。また、その考えを深める中で、更に考えるべきことを見いだされるなど、常に自己との関係で見つめ、振り返り、問い続けていこうとすることが大切である。



2. 総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力の整理（小学校・中学校）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○探究的な学習のよさの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習を通して身に付ける課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。 ○協同的（協働的）な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○探究的な学習のよさの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習を通して身に付ける課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。 ○協同的（協働的）な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。など

※太字は、小学校との相違点

3. 各学校において定める目標及び内容について

(1) 各学校において定める目標について（小学校・中学校）

各学校が定める総合的な学習の時間の目標は、各学校における教育目標と第1の目標を適切に踏まえて、総合的な学習の時間を通して各学校が育てたいと願う児童生徒の姿をえがく必要がある。また、学校全体で育てたい力と学校教育目標と直接的につながることから、総合的な学習の時間が、各学校のカリキュラム・マネジメントの中核になることが、今まで以上に明らかになっている。

(2) 各学校において定める内容について（小学校・中学校）

総合的な学習の時間の内容は、目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の二つを定めることが示された。

ア 目標を実現するにふさわしい探究課題

- ・目標の実現に向けて学校として設定した児童生徒が探究的に取り組む課題。従来「学習対象」として説明されてきたものに相当する。ここでの「探究課題」とは、指導計画の作成段階において各学校が内容として定めるものである。

【探究課題の例】

- ・現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題
- ・地域や学校の特色に応じた課題
- ・児童生徒の興味・関心に基づく課題

- イ 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力
- ・各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示したものであり、教師の適切な指導の下、児童生徒が各探究課題の解決に取り組む中で育成することを目指す資質・能力のことである。児童の発達段階や、探究的な学習への習熟状況、児童生徒や学校の実態に応じた設定をしていくことが重要となる。

4. 学習指導の改善・充実

(1) 他者と協働して主体的に取り組む学習活動の充実（小学校・中学校）

- ・協働的に学習することの目的は、グループでよりよい考えを導き出すことに加え、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要である。
- ・協働的に課題解決を行う際は、考えを可視化するなどして児童生徒同士で学び合うことを促す工夫が必要である。

(2) 言語により分析し、まとめたり、表現としたりする学習活動の充実（小学校・中学校）

- ・探究的な学習過程において、体験したことや収集した情報を、言語的により分析したりまとめたりすることは、自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚し、次の学びへと向かうために特に大切にすることが必要である。

(3) 「考えるための技法」を活用した学習活動の充実（小学校・中学校）

- ・「考えるための技法」とは、考える際に必要になる情報処理の方法を、例えば「比較する」「分類する」「関連付ける」など、技法のように様々な場面で使えるようにするものである。
- ・学習過程において「考えるための技法」を意識的に活用させることによって、児童生徒の思考を支援すると同時に、別の場面でも活用できるものとして習得させることが必要である。
- ・「考えるための技法」を探究過程において意図的、計画的に指導し、児童生徒が活用して課題解決することができるようになることで、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成にもつながる。

(4) 情報や情報手段を主体的に選択し活用する学習活動の充実（小学校・中学校）

- ・総合的な学習の時間においては、児童生徒探究的な学習の過程において、コンピュータなどの情報機器や情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用することによって、より深い学びにつなげるという視点が重要である。
- ・児童にとって、必然性のある探究的な学習の文脈において情報手段を活用する機会を設けることで、必要感に迫られた学習となる。
- ・なお、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、プログラミングを体験することが、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにし、併せて情報モラルを確実に身に付けさせることが望まれる。

(5) 自然体験やボランティア活動などの体験活動、地域の教材や学習環境の積極的な活用

- ・現行の学習指導要領と同様、引き続き重視する。 （小学校・中学校）

(6) 内省的な考え方が行われる学習活動の充実（中学校）

- ・中学生がこの時期に働くことや職業を自分との関わりで考え自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることにつながる重要な学習である。例えば、職場体験活動では、働く人と直接関わったり、目的と照らし合わせて考えたりする。
- ・そのため、職場体験後は、感想だけでなく、課題や目的に照らして何を考えたのか、さらにどのような課題が生まれてきたのかなどについてレポートにとまめたり発表したりして、さらに問題の解決や探究活動が連続することが大切となる。
- ・このような学習活動を通して、生徒が自分自身を内省的に捉え、周囲との関係で理解するなど、学ぶ意味や自分の将来、人生について考えることが期待できるのである。